

中級の壁を破る

—主に語彙学習の観点から—


松下達彦（東京大学）

（2019年11月15日，南京林業大学）

1. はじめに

Q1 何かを勉強／訓練したのに
進歩を感じなかったという経験が
ありますか。

If yes, …



Q2 もしそういう経験があるとしたら、それは初めからですか、途中からですか。

Q3 なぜそう感じたのでしょうか。

Q4 言語の学習で、思った通りに進歩 しないと感じたことがありますか（感じていますか）。

今日の目標

以下の2点について
解決の手がかりを得ること

- 日本語学習における「中級の壁」の正体
- 「中級の壁」を克服して
上級レベルへ進むには、どうしたらよいか
(特に語彙学習について)

2. 「中級の壁」とは何か

「外国語／第二言語の学習が
中級以上のレベルに到達したときに、
学習者が、進歩を、期待するとおりに
感じることができなくなる現象」

2. 「中級の壁」とは何か

「外国語／第二言語の学習が
中級以上のレベルに到達したときに、
学習者が、進歩を、期待するとおりに
感じることができなくなる現象」

2.1 「中級」とは？

2.2 「進歩」とは？

2.3 「期待するとおりに感じる」とは？

2.1 「中級」とは？

- A) 語彙
- B) 語彙以外の側面
- C) 日本語への投資の分かれ道

A) 語彙

理解語彙量による直観的、暫定的なレベル分け

頻度上位15,000語の中の書きことばの理解語数によるレベル分けの基準（松下2016）

⇒「日本語を読むための語彙データベース」

- 初級：上位1,500語を主な学習対象とし、総語数3000語程度まで
- 中級：上位1,500語が概ね確実に（9割以上理解できて）、上位7,000語程度までを主な学習対象とし、総語数12,000語程度まで
- 上級：上位7,000語が概ね確実に総語数約12,000語以上
・・・生教材（加工されていない、実際に使われているテキスト）が使えるレベル

理解語彙数から見た日本語レベル

	概ね確実(9割以上理解できる)語数レベル	総語数(理解できる語彙)
初級	0	~3,000程度
中級	上位1,500語	3,000~12,000程度
上級	上位7,000語	12000~

重要なのは総語数よりもおおむね確実な語数

⇒上級とは, 上級の内容をたくさん知っているということではなく, 中級までの内容を確実に理解できるということ

⇒例えばNI対策をするなら, 上級の問題をやるよりも中級の「“穴”をふさぐ」方が効果的

A) 語彙

理解語彙量による直観的、暫定的なレベル分け

- 上級: 上位7,000語が概ね確実に総語数約12,000語以上
…生教材(に近いテキスト)が使えるレベル

成人母語話者の語彙量(理解語彙): 概ね3万語~5万語

- 阪本(1955) 18歳: 約50,000語
- 林(1971) 20歳: 48,000語
- 中尾ほか(2012) 女子大学生: 34,900語
- 松浦(2015) 大学1年生: 33,611語
- 荻原(2016) 大学4年生: 45,354語
- 佐藤ほか(2017)をもとに計算
大学1年生: 42,000語(基本義の理解)

中級の語彙学習

- 中級の学習語彙量は多いが、習得速度は早くなる（松下ほか, 2016）
- 中級で学習する語彙の約3分の1は学術系のフォーマルな語彙（その4分の3は漢語）
 - ⇒ 漢字語学習の負担大
 - （ただし、中国語系学習者には有利）
- 語彙は速く増える（松下ほか2016）が・・・
 - 読解力の伸びはやや停滞する（Matsushita, 2014）
 - ⇒ 我慢の時期？

学習時間との関係（松下ほか2016）

第二言語学習者の場合、語彙量や漢字変換力は学習期間とどのような関係があるか。

- ・第二言語学習者が上級レベルになるには2000時間以上必要（表4）
- ・韓国語母語学習者は漢字変換力が上級レベルに到達するのが速い（表5）

語彙、漢字変換力に共通して見られる傾向

初級では語も漢字も時間がかかる

⇒中級にかけて効率的に学習

⇒上級に至ると再び時間がかかるようになる

語彙学習にかかる時間（松下ほか2016）

表4 L2日本語レベル別推定既知語数と学習時間

合計点	推定平均 既知語数*	推定平均 増加語数 (A)	人数	平均学習 時間	平均学習 時間差 (B)	1語平均学 習時間(分) (B/A)
0-20	5123	5123	26	580.6	580.6	6.8
21-40	12683	7560	65	844.0	263.4	2.1
41-60	20213	7529	64	1014.3	170.2	1.4
61-80	28454	8241	67	1643.0	628.7	4.6
81-100	36602	8149	85	2349.8	706.8	5.2
101-125	41891	5289	11	2414.5	64.8	0.7

*該当する受験者の得点の平均に400をかけた数値

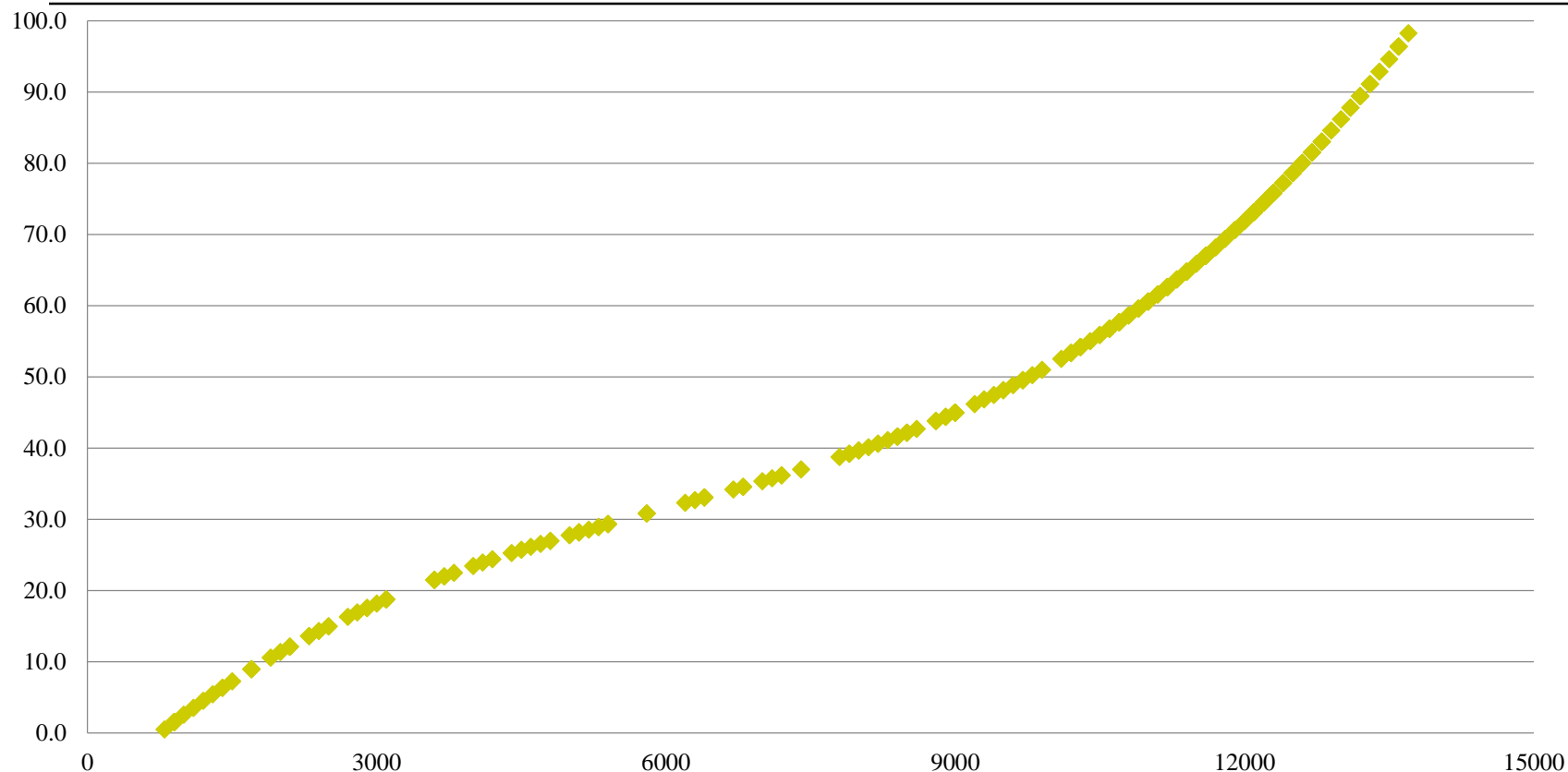
漢字変換の学習にかかる時間（母語別） （松下ほか2016）

表5 L2日本語レベル別推定「可変換漢字」数と学習時間

全体							L1中国語		L1韓国語		L1その他	
合計点	推定可変換漢字数*	推定平均増加可変換漢字数(A)	人数	平均学習時間	平均学習時間差(B)	1漢字平均学習時間(分)(B/A)	人数	平均学習時間	人数	平均学習時間	人数	平均学習時間
0-20	359	359	21	547.8	547.8	91.5	1	576	0		20	546
21-40	765	406	50	705.7	157.9	23.3	6	844	12	461	30	788
41-60	1259	493	90	1003.3	297.6	36.2	20	1575	45	466	24	1554
61-80	1778	519	146	2129.3	1126.0	130.1	105	2470	33	1392	6	708

*該当する受験者の得点の平均に25をかけた数値

語彙量からの回帰式による読解量の期待値
Expected Value for Reading Comprehension
from the Regression Formula (%) (Matsushita, 2014)



上位15,000語中の理解語彙数

Estimated Vocabulary Size within Top 15,000

B) 語彙以外の側面

- 音声・音韻：縮約などのバリエーション
例) ~てしまう ⇔ ~ちゃう
- 文法：初級要素の組み合わせ
例) 残業さ せ られ ている よう だっ た よ
- その他：状況に応じた、まとまった発話・作文
社会文化知識の必要性の増加
⇒ 自然な表現へのステップ

C) 日本語への投資の分かれ道

- 日本語で生活するだけなら、
初級終了でもなんとかなるが、
- 中級終了レベルでは、生の文章や会話を
完全に理解することは難しい

⇒ 中級終了でも、
日本語だけで仕事をするのは難しい

レベルと個人の目標

(桜美林大学ミーティング資料2006年2月)

	初級	中級	上級
生活	サバイバル 自己紹介、日本語のあまり要らない人間関係	生活の質の向上、コストの低減 日本語による(人間関係・情報の)ネットワークの拡大 所属コミュニティでの日本語話者との媒介	日本語による(人間関係・情報の)ネットワークの自在な調整
勉学	定型表現以外は日本語の要らない授業の受講(スポーツ等)、日本語を使わない日本研究等	日本語をあまり使わない専攻への進学 学部での基礎的な授業の受講	日本語を使う専攻への進学 学部・院での専門的授業の受講 (日本語で)学術性(思考力・論理性・分析力・批判力)を身に着ける
職業	定型表現以外は日本語の要らない仕事	簡単な日本語のみで済む仕事(例:ALT)	複雑でレベルの高い日本語を使う仕事
その他	異言語・異文化に触れる 日本語コミュニティに興味を持つ 能力を公的に示す =いい成績を取る	言語や文化への理解を深める 能力を公的に示す =〇〇試験合格	言語や文化への理解を深める 能力を公的に示す =日本語能力試験1級合格 =〇〇試験合格

日本語への投資の分かれ道

- 上級の長く険しい道のりが待っているかも・・・

⇒「日本語で生きていくかどうか」

＝日本語学習にどれだけ時間や費用を
かけるかを考える分かれ道

- 何のために日本語を使うのか？

⇒ 学習目標を具体的に考える段階

2. 「中級の壁」とは何か

「外国語／第二言語の学習が
中級以上のレベルに到達したときに、
学習者が、進歩を、期待するとおりに
感じることができなくなる現象」

2.1 「中級」とは？

2.2 「進歩」とは？

2.3 「期待するとおりに感じる」とは？

2.2 「進歩」とは？

- A) 読解・聴解における既知語率の上昇
- B) 理解語彙から使用語彙への変化
- C) 流暢さの向上
- D) 誤用・回避の減少

A) 読解・聴解における既知語率の上昇

□ 既知語率 = ある文章や談話の中で
知っている単語

その文章（談話）全体の単語数

□ 既知語率 \div カバー率 (text coverage)

テキストカバー率 (text coverage)

- 使用頻度の順位上位n番目までの語彙で
その言語のテキスト(文章)が理解できる
割合
- 通常の日本語学習では、
おおよそ使用頻度の高い語から
順番に学習していく (Read, 1988など)
⇒ 既知語率 \div カバー率

メディア別・語数別テキストカバー率 (Matsushita, 2012)

* 頻度上位から順に学習したと仮定

メディア別・語数別テキストカバー率(%)

* 機能語を含む。頻度順位は単純頻度に基づき、分散度による調節などを行っていない

語彙頻度ランク	AKW (*1)	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000
雑誌(国立国語研究所2006)	4.1	75.3	81.6	85.3	87.6	89.3	90.7	91.7	92.6	93.3	93.9
新聞(天野&近藤2000)	5.5	74.3	81.3	85.2	87.7	89.5	90.9	92.0	92.8	93.6	94.2
書籍(国立国語研究所2009)	2.2	78.7	84.5	87.7	89.7	91.2	92.4	93.3	94.0	94.7	95.2
インターネットフォーラムサイト(国立国語研究所2009)	1.0	84.0	89.1	91.8	93.5	94.7	95.6	96.3	96.8	97.2	97.6

*1 AKW: 想定既知語彙 Assumed Known Words。フィラー、固有名詞など(高頻度の固有名詞 0.007%を除く)

*2 テキストカバー率にはすべて想定既知語彙(AKW)を含む

11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	25000	30000	35000	40000
94.5	94.9	95.3	95.7	96.0	96.3	96.6	96.9	97.1	97.3	98.2	98.6	99.1	99.6
94.7	95.2	95.6	95.9	96.2	96.5	96.8	97.0	97.2	97.4	98.1	98.6	98.9	99.1
95.6	96.0	96.3	96.6	96.9	97.2	97.4	97.6	97.8	97.9	98.5	99.0	99.2	99.4
97.8	98.1	98.3	98.5	98.6	98.8	98.9	99.0	99.1	99.2	99.5	99.7	99.8	99.9

テキストカバー率 (Matsushita 2012)

□ 日本語のカバー率 (助詞などの機能語を含む)

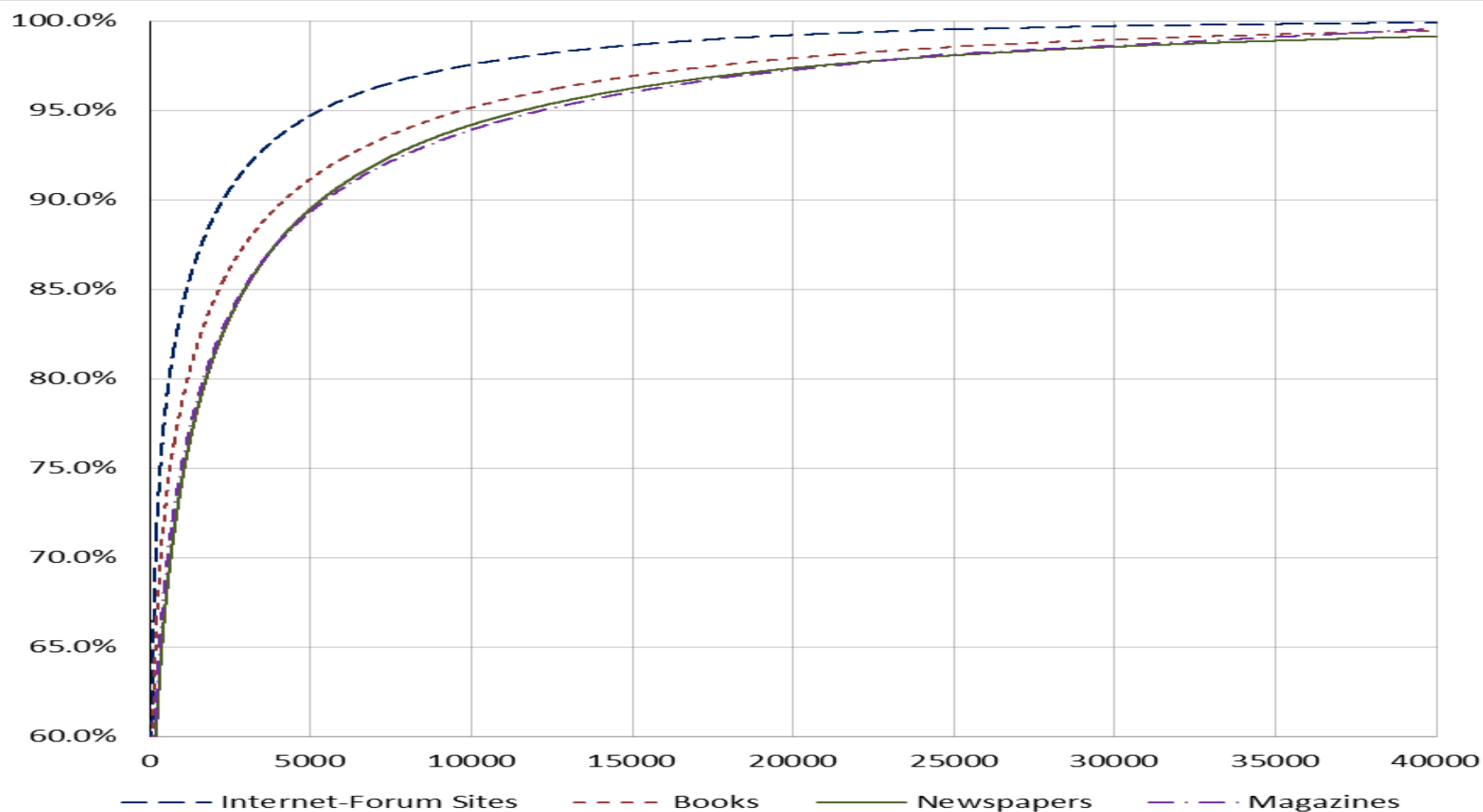
書籍 (国研, 2009) 雑誌 (国研2006)

上位1,000語:	78.7% (+78.7%)	75.3%
2,000語:	84.5% (+5.8%)	81.6%
3,000語:	87.7% (+3.2%)	85.3%
4,000語:	89.7% (+2.0%)	87.6%
5,000語:	91.2% (+1.5%)	89.3%
<hr/>		
10,000語:	95.2% (+1.0%/1,000語)	93.9%
15,000語:	96.9% (+0.3%/1,000語)	96.0%

「中級の壁」...

メディア別テキストカバー率

(Matsushita 2012)



メディア別・語数別テキストカバー率 (Matsushita, 2012)

* 頻度上位から順に学習したと仮定

メディア別・語数別テキストカバー率(%)

* 機能語を含む。頻度順位は単純頻度に基づき、分散度による調節などは行っていない

新聞と雑誌を比べると
ここでカバー率が逆転

語彙頻度ランク	AKW (*1)	1000	2000	3000	4000	5000	6000	7000	8000	9000	10000
雑誌(国立国語研究所2006)	4.1	75.3	81.6	85.3	87.6	89.3	90.7	91.7	92.6	93.3	93.9
新聞(天野&近藤2000)	5.5	74.3	81.3	85.2	87.7	89.5	90.9	92.0	92.8	93.6	94.2
書籍(国立国語研究所2009)	2.2	78.7	84.5	87.7	89.7	91.2	92.4	93.3	94.0	94.7	95.2
インターネットフォーラムサイト(国立国語研究所2009)	1.0	84.0	89.1	91.8	93.5	94.7	95.6	96.3	96.8	97.2	97.6

*1 AKW: 想定既知語彙 Assumed Known Words。フィラー、固有名詞など(高頻度の固有名詞 0.007%を除く)

*2 テキストカバー率にはすべて想定既知語彙(AKW)を含む

新聞には中級
語彙が多く、雑
誌には初級語
彙と専門語彙
が多い

11000	12000	13000	14000	15000	16000	17000	18000	19000	20000	25000	30000	35000	40000
94.5	94.9	95.3	95.7	96.0	96.3	96.6	96.9	97.1	97.3	98.2	98.6	99.1	99.6
94.7	95.2	95.6	95.9	96.2	96.5	96.8	97.0	97.2	97.4	98.1	98.6	98.9	99.1
95.6	96.0	96.3	96.6	96.9	97.2	97.4	97.6	97.8	97.9	98.5	99.0	99.2	99.4
97.8	98.1	98.3	98.5	98.6	98.8	98.9	99.0	99.1	99.2	99.5	99.7	99.8	99.9

B) 理解語彙から使用語彙への変化

- 理解語彙は常に使用語彙より多い
- 使用語彙の増加は、中上級では理解語彙の増加に比例しない

(黒崎・松下 2009)

例) 「静かな住宅街」 > 「閑静な住宅街」
「軽い/速いリズム」 > 「軽快なリズム」

例) とても、すごく、非常に、大変、めっちゃ

C) 流暢さの向上

- 一定の時間により多くのことばを処理できるようになる
- 考えずに反応できる = 処理の自動化

多読が流暢さを向上させる効果は実証済み

(主に英語教育での研究)

- **Fluency** - e.g. Beglar and Hunt (2014); Beglar, Hunt, and Kite (2012); McLean and Rouault (2017)

・・・日本語教育では生のテキストが読めない段階で読む経験ができる

(サンドーム&松下,2019)より

- 中国語系学習者には多聴が必要かもしれない

D) 誤用・回避の減少

- 誤用、回避の原因の一つが母語干渉
- 学習は既有知識に基づく
- 母語知識は既有知識

⇒母語の干渉は自然には消えない

(特に漢字圏学習者の母語知識は
漢字を見るだけで自動的に活性化される)

2. 「中級の壁」とは何か

「外国語／第二言語の学習が
中級以上のレベルに到達したときに、
学習者が、進歩を、期待するとおりに
感じることができなくなる現象」

2.1 「中級」とは？

2.2 「進歩」とは？

2.3 「期待するとおりに感じる」とは？

2.3 「期待するとおりに感じる」とは？

A) 進歩を“感じる”のはどんなときか

B) おもしろさ・新鮮さとの関係

C) 学習ジャンルとの関係

D) 達成感の感じやすさとの関係

—目標意識、期待する進歩の幅—

A) 進歩を“感じる”のはどんなときか

Q: 日本語の勉強をしていて、進歩を感じるのはどんなときですか？

□ フィードバックのタイプ

- 自分から（気づく）
- 他者から（ほめられる、テストの成績等）

B) 学習ジャンルとの関係

- 何ができることを期待しているか
やる気のないことには進歩を感じにくいかも
⇒ 学習目標と学習内容は一致しているか？
- ❖ 聴く：車内放送、ドラマ、ニュース、講義・・・
- ❖ 話す：日常会話、商談、講演、恋愛会話・・・
- ❖ 読む：新聞、雑誌、小説、エッセイ、専門書・・・
- ❖ 書く：日常メール、ビジネスレター、論文・・・
- ◆ 専門分野：経済？ 文学？ 技術？

C) おもしろさ・新鮮さとの関係

- 「飽きる」ことも「中級の壁」の原因(?)
- 意識・無意識に楽しいことを期待するのが人間...
- 「おもしろいこと」の特徴
...予測と異なる変化、予測できない結果

D) 達成感の感じやすさとの関係

- 目標や期待の高さ
- 自己イメージの高さ
 - 「できる」と思う人は本当にできるか
 - 「できない」と思う人は本当にできないか
- 常にそうだとは言えない(玉岡・松下・元田2005)
- 楽観的か悲観的か

ここまでのまとめ

- ❖ 学習語彙量が急増し、表現のバリエーションも増え、これから日本語で生きていくのかどうか迷い始めるのが中級
- ❖ 勉強しても既知語率が上がらない壁、理解できても使えない壁、スピードの壁、母語が邪魔する壁などの、さまざまな壁に当たるのが中級
- ❖ ことばを使う世界の広さに戸惑うのが中級
- ❖ 新鮮さが減り、ちょっと飽きてくるのが中級
- ❖ 自己イメージが低かったり、悲観的だったりすると、ますます壁を感じるのが中級

3. 「中級の壁」を破る方法

- 3.1 基礎を固める
- 3.2 特定領域のカバー率を上げる
- 3.3 使用語彙を増やす
- 3.4 スピードを上げる
- 3.5 母語との違いを知る
- 3.6 期待を絞る
- 3.7 進歩について考えなくて済むようにする

(Nation, 2001; Laufer et. al., 2005; Beglar and Hunt, 2005 も参照)

3.1 基礎を固める

□ 高頻度語の“穴”を埋める

高頻度語のほうが少ない勉強で効率的にカバー率を上げられる

□ 上級学習者

上級語彙をたくさん知っているとは限らない
中級までの“穴”が少ない人

➤ 語彙表の利用によるチェック

3.2 特定領域の既知語率を上げる

- 中級以上の語彙はたまにしか出てこない
- 忘れないうちに再学習すれば、
記憶は強化される
- 同じ語が繰り返し出てくるように、
トピックを絞り、さまざまな材料で
一定期間続けて勉強する
- 単語カードを作って復習する

記憶のメカニズム

＊記憶の処理水準モデル、精緻化リハーサル
(Craik & Lockhart, 1972)

- 意味処理をした語 ⇒よく覚えられる
- 語構成要素とその組み合わせで語彙増
- 連想やイメージ化等の複雑な処理
⇒更によく覚えられる
- 有意味なコミュニケーション(学習)をする
例) 勉強した内容について誰かと話す

3.3 使用語彙を増やす

- 使用（産出）＝ 意味 ⇒ 形式
- 意味から“検索”ができないと使えない
 - ⇒ 深い学習が必要
 - ⇒ 検索の手がかりを増やす
- 有意味なコミュニケーション（学習）をする
- リハーサルをする（頭の中で表現してみる）
- 自己表現する

3.4 スピードを上げる

- 読解のときも音韻情報が活性化される
 - ⇒ 速いものを聞いて理解できれば速く読める
 - ⇒ 聴解のスピードは非常に重要

- スピードを意識した練習

- • • 時間を測って記録する、自動化促進
 - スピード・リスニング： 同じ材料をスピードを変えて聞く
 - スピード・リーディング：
すべて既知語で同じ長さ（約1ページ）の材料を読んで毎回、時間を測る
 - スピード・ライティング
 - スピード・スピーキング cf. 4・3・2 (Nation, 2007)

3.5 母語との違いを知る

□ 母語の干渉は自然には消えない

➤ 意識的に抑制する

➤ 母語との違いを“意識する”

➤ 母語知識はできるだけ利用する

➤ ただし母語と違うと思ったら

母語以外の手がかりを使って学習する

(よい学習者はそれができる (松下・Taft・玉岡2004))

3.6 期待を絞る、進歩を確認する

- ❑ 完璧を求めない、完璧な人間はいない
- ❑ 母語話者も完全ではない
- ❑ 「千里の道も一歩から」
- 実現可能な小さい目標を積み重ねる
- 学習の記録を残して（作文、会話の録音）、
ときどき見直す = 自己フィードバック
⇒ 進歩を感じる

3.7 進歩について

考えなくて済むようにする

□ 楽しくやろう

➤ 楽しめる素材を自分で探して使う

例) 辞書をほとんど引かずに読めるもの

教師・研究者にできる支援

- A) 意識づけ(有効な学習方法、どのくらい勉強すればどこまでいけるかを教える、等々)
- B) 学習ストラテジーのトレーニング、特にメタ認知(計画, 自己評価, 情意=励ましなど)
- C) 「生の経験」ができる、語彙・文法をコントロールした素材づくり 「やさしい日本語」と似た方法(参考: 松下2017)
- D) 流暢さ向上のための時間制限つき練習
- E) これらに関する研究をする

4. おまけ

- ❑ 日本語の語彙の最近50年間の変化
- ❑ 効果的な語彙学習の方法
- ❑ 中国語母語の日本語学習者の
有利と不利

日本語の語彙の最近50年間の変化

□ 外来語の劇的な増加 (国立国語研究所2006、山崎2006)

延べ語数: 2.9%(1956) ⇒ 12.4%(1994)

異なり語数: 9.8%(1956) ⇒ 34.8%(1994)

□ 頻度順位が上がったと思われる語の例

(上位1000位以内)

「デザイン」「システム」「ポイント」

「メーカー」「ボディー」「オリジナル」

「サービス」「パワー」「ファックス」「CD」「PC」

*「ファックス」「CD」は現在は減っていると思いますが・・・

効果的な語彙学習の方法

(Nation, 2001; Laufer et. al., 2005; Beglar and Hunt, 2005)

- 意識的学習をする・・・効果が高い
例) 単語カード *順序を固定しない
- 忘れないうちに繰り返す
- 有意味な文脈で、共起語に注意する
- 最初は類義語と一緒に覚えようとしない
既知語に結びつける
- 形の似ている語に注意する
- 電子辞書を有効に使う(ジャンプと履歴)

中国語母語の日本語学習者の 有利と不利

- 文字・語彙の学習は有利のほうが多い
同形語の86%は基本義が共通
(松下・陳・王・陳2017)
- 初期段階では漢字語の音韻学習が遅れやすい
- 語彙が処理できると文法には注意が向きにくくなる (Ellis & Saggara, 2010)



ありがとうございました

参考文献(1)

- Beglar D. and Hunt A. (2005) Six principles for teaching foreign language vocabulary. *The Language Teacher*, 29(7): 7–10.
- Beglar, D., & Hunt, A. (2014). Pleasure reading and reading rate gains. *Reading in a Foreign Language*, 26(1), 29–48.
- Beglar, D., Hunt, A., & Kite, Y. (2012). The effect of pleasure reading on Japanese university EFL learners' reading rates. *Language Learning*, 62(3), 665–703.
- Craik F.I.M. and Lockhart R.S. (1972). Levels of Processing: A framework for memory research. *Journal of Verbal Learning and Verbal Behaviour*, 11: 671–684

参考文献(2)

- Ellis, N. C. & Sagarra, N. (2010). The bounds of adult language acquisition: Blocking and learned attention. *Studies in Second Language Acquisition*, 32 (4), 553–580.
- Laufer, B., Meara P. and Nation P. (2005). Ten best ideas for teaching vocabulary. *The Language Teacher*, 29(7): 3–6.
- Nation, I.S.P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Nation, Paul. (2007). The four strands. *Innovation in Language Learning and Teaching*. 1(1), 2–13.
- Matsushita, Tatsuhiko. (2012). In what order should learners learn Japanese vocabulary? A corpus-based approach. PhD thesis, Victoria University of Wellington.
- Matsushita, Taushiko. (2014). How is the relationship between vocabulary knowledge and reading comprehension? A case of Japanese. AILA World Congress 2014, Brisbane, 15 August 2014

参考文献(3)

- McLean, S., & Rouault, G. (2017). The effectiveness and efficiency of extensive reading at developing reading rates. *System*, 70(1), 92-106.
- Ringbom, H. (2007). *Cross-linguistic similarities in foreign language learning*. Multilingual Matters, Clevedon.
- 荻原廣(2016).「大学4年生の日本語の使用語彙は平均約3万語、理解語彙は平均約4万5千語」『京都語文』23, 276-298.
- 黒崎亜美・松下達彦(2009)「中上級日本語学習者による形容語彙の産出 —韓国語母語の学習者の場合—」『日本語教育』141、46-56
- 国際交流基金、日本国際教育協会編(2002)『日本語能力試験出題基準【改訂版】』凡人社
- 国立国語研究所(2006)『現代雑誌200万字言語調査語彙表』公開版(ver.1.0)
https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/mag200.html
よりダウンロード可(2019年9月7日確認)

参考文献(4)

阪本一郎(1955)『読みと作文の心理』牧書店

佐藤尚子・田島ますみ・橋本美香・松下達彦・笹尾洋介
(2017)「使用頻度に基づく日本語語彙サイズテストの開
発：50,000語レベルまでの測定の試み」『千葉大学国
際教養学研究』1、15-25

中尾桂子・柴田実・中谷由郁・平林一利(2012)『「文章表
現」指導内容再考のための一考察—学生の語彙量、記
述上の形式的規則に見られる問題点の観察をもとに
—』『大妻女子大学紀要—文系—』No44

林四郎(1971)「語彙調査と基本語彙」『国立国語研究所報
告39電子計算機による国語研究Ⅲ』国立国語研究所

松浦年男(2015)「大学初年次の学生に対する日本語語彙
力調査の試行」『北星学園大学文学部北星論集』52(2),
53-61

松下達彦(2009)「マクロに見た常用漢字語の日中対照研
究 —データベース開発の過程から—」『桜美林言語教
育論叢』5: 117-131

参考文献(5)

- 松下達彦(2016) 第3章「コーパス出現頻度から見た語彙シラバス」、森 篤嗣編(15名の共著)『ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版、53-77
- 松下達彦(2017)『日本語読解テキストのリライトの重要性とアプローチ—語彙的要素を中心に—」国際交流基金 日本語国際センター・政策研究大学院大学、『日本言語文化研究会論集』13、1-18
- 松下達彦・Marcus Taft・玉岡賀津雄(2004)『中国語「単語」を知っていることは日本語漢字語の発音学習に役立つか?』,記念論文集編集委員会編『平井勝利教授 退官記念 中国学・日本語学論文集』白帝社、578-590
- 松下達彦・田島ますみ・佐藤尚子・橋本美香・笹尾洋介(2016)「第一言語・第二言語としての日本語語彙量と漢字変換力の測定」『日本語教育学会国際研究大会予稿集』(USBメモリによる会場配布のみ)

参考文献(6)

- 松下達彦・陳夢夏・王雪竹・陳林柯(2017)「[日中対照漢字語データベースの開発と応用](#)」『2017年度 日本語教育学会秋季大会 予稿集』日本語教育学会、366-371
- 山崎 誠(2006)「国立国語研究所の語彙調査の歴史と課題」『東京大学大学院教育学研究科 教育測定・カリキュラム開発講座 2006年度研究活動報告書』